

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-291934

(P 2 0 0 3 - 2 9 1 9 3 4 A)

(43) 公開日 平成15年10月15日 (2003. 10. 15)

(51) Int. Cl.	識別記号	F I	テマコード (参考)
B65D 1/02		B65D 1/02	E 3E033
77/20		77/20	R 3E067
77/30		77/30	A

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-94686 (P 2002-94686)

(22) 出願日 平成14年 3 月 29 日 (2002. 3. 29)

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所
東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号

(72) 発明者 橋本 和紀

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

(72) 発明者 阿部 孝之

東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

(74) 代理人 100068157

弁理士 今岡 良夫 (外 1 名)

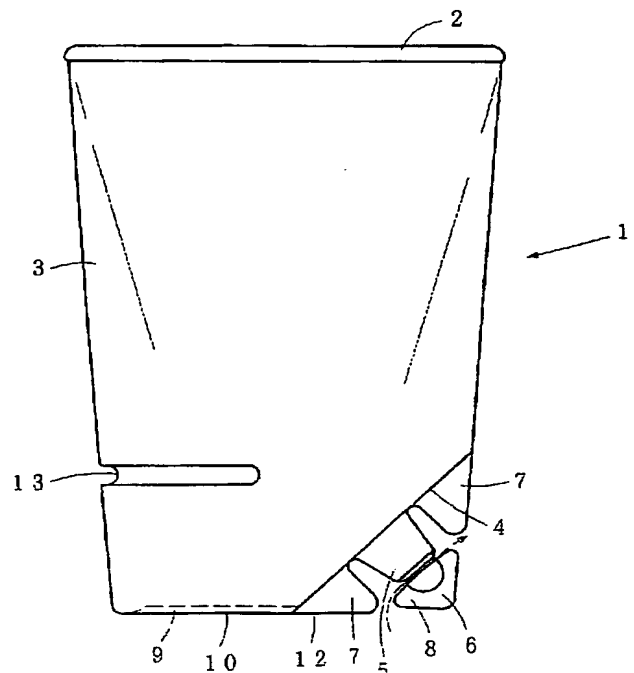
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 詰替え液体収納容器

(57) 【要約】

【課題】 被詰替え容器体内への詰替えを確実に容易に行えるよう設けた詰替え液体収納容器を提案する。

【解決手段】 第 1 口頸部 5 左右両側の少くとも一方肩部分から、第 1 口頸部側面との間へ少間隙をおいてガイド板 7 を突出し、その少間隙内へ、被詰替え容器の第 2 口頸部 15 の周壁を、かつ該第 2 口頸部 15 内へ上記第 1 口頸部を、それぞれ嵌合可能に設けた。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 胴部前端から肩部を介して先端面閉塞の第 1 口頸部を突出する詰替え液体収納容器において、第 1 口頸部 5 左右両側肩部の少なくとも一方から該第 1 口頸部側面との間に少間隙をおいてガイド板 7 を突出し、該少間隙 24 内へ被詰替え容器 14 の第 2 口頸部 15 周壁を、かつ該第 2 口頸部内へ第 1 口頸部 5 を、それぞれ嵌合可能に形成したことを特徴とする詰替え液体収納容器。

【請求項 2】 胴部 3 下面の左右方向一半を斜上外方への傾斜壁 4 として、該傾斜壁を上記第 1 口頸部 5 およびガイド板付きの肩部となし、該第 1 口頸部 5 の先端部と胴部 3 の上端部とを、板状に挟持圧着させたシール部 2、6 に形成したことを特徴とする請求項 1 記載の詰替え液体収納容器。

【請求項 3】 胴部 3 下面の他半部を底壁 9 となし、上記傾斜壁側を除く底壁外周部を下方へ張出しさせて半筒状の脚部 10 に形成すると共に、該脚部内方底壁部分の前後方向中間部から第 1 脚板 11 を垂下し、かつ該第 1 脚板を延長させて、第 1 口頸部 5 下方の肩部分から突出するガイド板 7 と連続させて第 2 脚板 12 となし、上記脚部 10、第 1 脚板 11、第 2 脚板 12 の各下端面を、容器正立時の接地面としたことを特徴とする請求項 2 記載の詰替え液体収納容器。

【請求項 4】 胴部上端から肩部を介して上端面閉塞の口頸部を起立する形状の容器を縦断し、肩該当部分上面の少なくとも一方から、口頸部該当部分 23 との間に小間隙 24 をおいてガイド板 25 を起立する形状で胴部該当部分等の凹部を前面開口する半容器状板 21 と、上記凹部を閉塞させて半容器状板前面へ接合させた耐水性フィルム 31 とからなり、上記小間隙前方のフィルム部分には切離し線 32 を縦設し、又口頸部該当部分 23 の上部前方フィルム部分にスリット 33 ないし透孔を穿設して該スリットないし透孔をタックシール 36 で閉塞したことを特徴とする請求項 1 記載の詰替え液体収納容器。

【請求項 5】 胴部該当部分前方のフィルム部分へ、スリット 33 ないし透孔を穿設して、該スリットないし透孔をタックシール 36 で閉塞したことを特徴とする請求項 4 記載の詰替え液体収納容器。

【請求項 6】 上記半容器状板の胴部該当部分凹部の奥行きを、下方は深く、かつ上方は浅く形成して、容器側面形状を、下部が巾広でかつ上部が巾狭に形成し、胴部該当部分下面を容器正立時用の接地面としたことを特徴とする請求項 4 又は 5 記載の詰替え液体収納容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、合成樹脂材で成形した詰替え液体収納容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 詰替え液体収納容器は廉価に形成できることが必要であり、そのため従来パウチと称する剛性に乏しい容器が用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上記容器は剛性が乏しいため、被詰替え容器内への液体詰替えが行い難い欠点があった。

【0004】 本発明は、その液体詰替えが容易でかつ廉価に形成できるよう設けたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 第 1 の手段として胴部前端から肩部を介して先端面閉塞の第 1 口頸部を突出する詰替え液体収納容器において、第 1 口頸部 5 左右両側肩部の少なくとも一方から該第 1 口頸部側面との間に少間隙をおいてガイド板 7 を突出し、該少間隙 24 内へ被詰替え容器 14 の第 2 口頸部 15 周壁を、かつ該第 2 口頸部内へ第 1 口頸部 5 を、それぞれ嵌合可能に形成した。

【0006】 第 2 の手段として、上記第 1 の手段を有すると共に胴部 3 下面の左右方向一半を斜上外方への傾斜壁 4 として、該傾斜壁を上記第 1 口頸部 5 およびガイド板付きの肩部となし、該第 1 口頸部 5 の先端部と胴部 3 の上端部とを、板状に挟持圧着させたシール部 2、6 に形成した。

【0007】 第 3 の手段として、上記第 2 の手段を有すると共に胴部 3 下面の他半部を底壁 9 となし、上記傾斜壁側を除く底壁外周部を下方へ張出しさせて半筒状の脚部 10 に形成すると共に、該脚部内方底壁部分の前後方向中間部から第 1 脚板 11 を垂下し、かつ該第 1 脚板を延長させて、第 1 口頸部 5 下方の肩部分から突出するガイド板 7 と連続させて第 2 脚板 12 となし、上記脚部 10、第 1 脚板 11、第 2 脚板 12 の各下端面を、容器正立時の接地面とした。

【0008】 第 4 の手段として、上記第 1 の手段を有すると共に胴部上端から肩部を介して上端面閉塞の口頸部を起立する形状の容器を縦断し、肩該当部分上面の少なくとも一方から、口頸部該当部分 23 との間に小間隙 24 をおいてガイド板 25 を起立する形状で胴部該当部分等の凹部を前面開口する半容器状板 21 と、

上記凹部を閉塞させて半容器状板前面へ接合させた耐水性フィルム 31 とからなり、

上記小間隙前方のフィルム部分には切離し線 32 を縦設し、

又口頸部該当部分 23 の上部前方フィルム部分にスリット 33 ないし透孔を穿設して該スリットないし透孔をタックシール 36 で閉塞した。

【0009】 第 5 の手段として、上記第 4 の手段を有すると共に胴部該当部分前方のフィルム部分へ、スリット 33 ないし透孔を穿設して、該スリットないし透孔をタッ

クシール36で閉塞した。

【0010】第6の手段として、上記第4又は5の手段を有すると共に上記半容器状板の胴部該当部分凹部の奥行きを、下方は深く、かつ上方は浅く形成して、容器側面形状を、下部が巾広でかつ上部が巾狭に形成し、胴部該当部分下面を容器正立時用の接地面とした。

【0011】

【発明の実施の形態】まず図1から図4が示す第1実施形態について説明すると、1はブロー成形され、かつ胴部上端開口部を挟着して平板状のシール部2とした容器で、該容器は図示例において胴部3下面の右半を斜上外方への傾斜壁4とし、かつ該傾斜壁の上下方向中間部を斜下外方へ突出する第1口頸部5とし、該第1口頸部の下端部は板状に閉塞されたシール部6としている。又図1、図2が示すように、第1口頸部5上下の傾斜壁4部分前後方向の中間部からは、第1口頸部左右側面との間に少間隙をおいてガイド板7、7を斜下外方へ突出させている。これ等第1口頸部およびガイド板7、7は、胴部下面を右方へ、かつ胴部右側面を下方へ、それぞれ延長した二面と、上記傾斜壁4とが囲む空間内へ位置するよう設けている。又第1口頸部下端のシール部6先端部も板状とされ、該板状部8は上記ガイド板7、7と同一垂直面上に位置し、かつ上記空間内へ位置させている。

【0012】胴部下面の左半は底壁9としており、上記傾斜壁側を除く底壁外周部下方へ張出しさせて半筒状の脚部10としている。又該脚部内方の底壁部分の前後方向中間部からは、フランジ状に第1脚板11を垂下し、かつ該第1脚板を右方へ延長させて、第1口頸部5下方の肩部分から突出するガイド板7と連続させて、これ等延長部分とガイド板とで第2脚板12を形成している。それ等脚部10、第1、第2脚板11、12の各下面は同一平面上に位置させ、容器正立時の接地面とする。尚図示例において胴部左方の下部には凹溝13を横設しているが、該凹溝は胴部上端開口で液体充填を行う前の成形品積み重ね用の係合部で、必ずしも必要としない。

【0013】上記容器内への液体充填は、胴部3上端の開口から行い、液体充填後、その開口部を挟着させてシール部2とする。

【0014】液体詰替えの際は、図4が示すように第1口頸部5下端のシール部6を破断して除去した後、第1口頸部5外面とガイド板7、7との間隙内へ、被詰替え容器14の第2口頸部15を差込み、又その第2口頸部内へ本発明容器の第1口頸部5を嵌合させて詰替えすればよい。

【0015】図5から図8は第2実施形態を示す。該実施形態の容器は、熱成形等された合成樹脂製半容器状板21と、該半容器状板の前面へ溶着等して接合させた耐水性フィルム31とからなる。

【0016】半容器状板21は、胴部上端から肩部を介して口頸部を起立する形状の容器を、縦断した形状で、前

面凹状かつ後面凸状で又その肩部該当部分22の前面から、口頸部該当部分23外面との間に小間隙24をおいてガイド板25、25を起立する形状としている。それ等ガイド板前面は半容器状板21前面と面一に形成している。

【0017】該半容器状板は、側面からみて下方が巾広でかつ上部は巾狭に形成しており、このようにすることで、凹部26の下端部が最も奥行きが大で上部奥行きを浅くできる。但し凹部の口頸部該当部分の奥行きは上下同じにしている。

【0018】上記半容器状板21の前面へは、凹部26を閉塞させて耐水性フィルム31を接合させている。該フィルムは、図6、図7が示すように半容器状板21が有する小間隙24、24前方のフィルム部分に切離し線32、32を縦設し、又口頸部該当部分の上部前方と、胴部該当部分前方のフィルム部分にスリット33、33ないし透孔を穿設している。スリットの場合は図示のように十字形とすればよい。

【0019】上記耐水性フィルム接着により容器34が形成でき、該容器内への液体充填は、図7のように胴部該当部分前方のスリット33ないし透孔内へ注液用ノズル35を差込んで行う。該液体充填後、上記スリットないし透孔をタックシール36貼着によって閉塞する。図示例では上記両スリットを中間部にミシン目38を有する縦長のタックシールで同時に行っている。

【0020】液体詰替えの際は、予めミシン目破断により上方タックシール部分を除去しておき、図8が示すように、既述口頸部該当部分23と該部分前方のフィルム部分とが形成する第1口頸部37を、被詰替え容器14の第2口頸部15内へ、又該第2口頸部周壁を小間隙24と切離し線32とが形成する割溝状部分内へそれぞれ嵌合させ、口頸部部分前方のフィルム部分に設けたスリット33ないし、透孔からの液体注出で行うことが出来る。

【0021】

【発明の効果】本発明は既述構成とするものであり、請求項1記載のように行うことで被詰替え容器内への液体詰替えは、該被詰替え容器の第2口頸部15周壁を小間隙24内へ、又該第2口頸部内へ第1口頸部5、37を、それぞれ嵌合させて行うからその詰替え時に第2口頸部15内から第1口頸部が外れるようなことがなく、その詰替えを容易かつ確実に行うことが出来る。

【0022】請求項2のように行うことで、第1口頸部5の先端部および胴部3上端部の閉塞を簡易に行うことが出来る。

【0023】請求項3のように行うことで、接地面の拡がりを大とすることが出来、容器正立状態保持に役立てることが出来る。

【0024】請求項4のようにすることで、容器を低コストで形成でき、又該容器内からの液体注出口の形成が容易である。

【0025】請求項5のようにすることで、容器内への

液体充填口の形成が容易である。

【0026】請求項6のようにすることで、重心が下方にあって倒れ難い容器とすることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明容器の側面図である。

【図2】 容器の底面図である。

【図3】 容器要部の縦断面図である。

【図4】 被詰替え容器内への詰替え状態を示す側面図である。

【図5】 第2実施形態で示す、容器の斜視図である。

【図6】 図5容器の分解斜視図である。

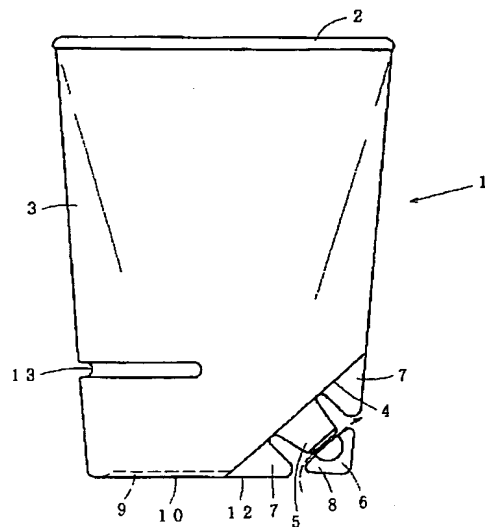
【図7】 図5容器内への液体充填方法を示す斜視図である。

【図8】 被詰替え容器内への液体詰替え方法を示す説明図である。

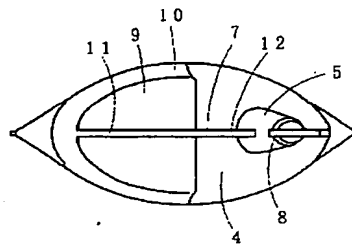
【符号の説明】

- | | |
|------------|-----------|
| 4…傾斜壁 | 5…第1口頸部 |
| 7…ガイド板 | 10…脚部 |
| 11…第1脚板 | 12…第2脚板 |
| 14…被詰替え容器 | 15…第2口頸部 |
| 21…半容器状板 | 22…肩部該当部分 |
| 23…口頸部該当部分 | 25…ガイド板 |
| 21…半容器状板 | 22…肩部該当部分 |
| 23…口頸部該当部分 | 25…ガイド板 |
| 31…耐水性フィルム | 32…切離し線 |
| 33…スリット | 36…タックシール |
| 37…第1口頸部 | |

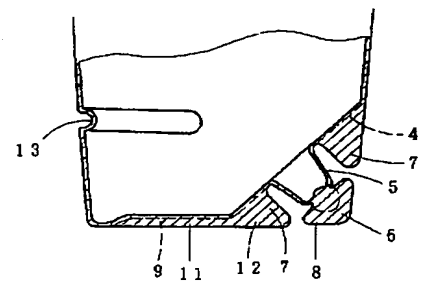
【図1】



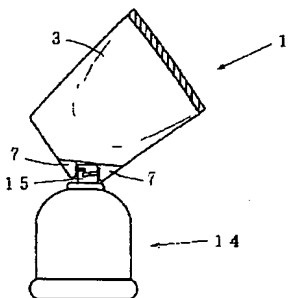
【図2】



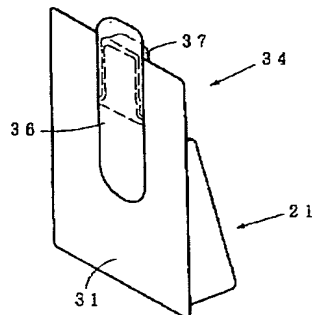
【図3】



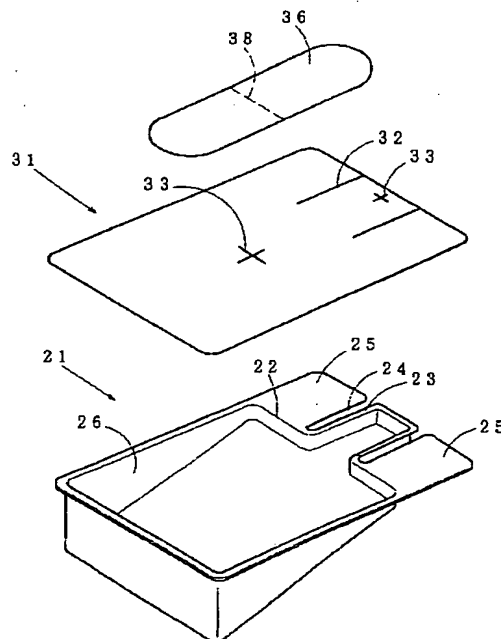
【図4】



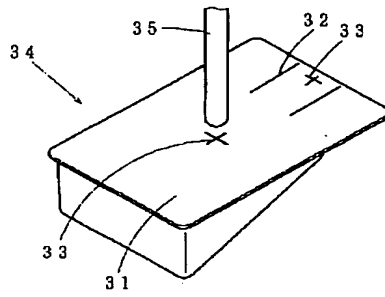
【図5】



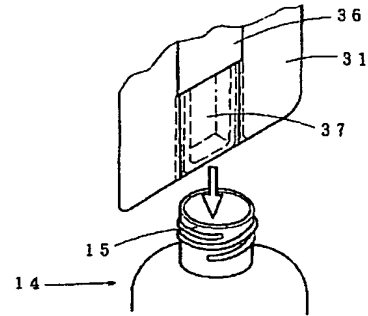
【図6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

(72)発明者 山中 伸夫
東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉
野工業所内

Fターム(参考) 3E033 AA20 BA13 DA01 DD01 FA03
GA02
3E067 AA03 AB99 BA01A BB14A
EA29 EB02 FA01 FC01 GD10